※令和４年度以降入学生用

学校番号	1013

令和８年度　看護科

教科	看護科	科目	看護基礎(前期)	単位数	２単位	年次	２年前期
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

医療･看護の基礎知識を学び、講義と生活援助の実習を通して、患者さんと関わる際に必要な知識・技術及び態度を学習します。基礎看護実習を多く取り入れており、実習への取り組み態度や実技テスト、実習レポートと小テストなどで評価を行います。

2　学習の到達目標

・人間のからだの仕組みを理解し、健康や疾病を全人的に捉えることを理解する。看護の意義と役割を理解し、日常生活の援助に必要な知識と技術を習得する。
・実習を通して医療従事者としての患者との関わり方について考え、実践する。
・主体的に実習に取り組むことで看護を行うための基本的態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活の援助及び診療に伴う援助に必要な知識と技術を習得している。	健康や疾病を全人的に捉えることができるようにする。 患者の観察やアセスメントから得た情報から、他への影響の現れ方など関連付けて思考し、意見交換ができている。	看護の職業倫理を踏まえて課題を発見し、主体的かつ協働的に解決する力を養う。 看護を行うための基本的態度の育成を図っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	日常生活と看護	1)日常生活の援助の意義 2)病床環境の調整･姿勢と体位 3)食事･衣生活･からだの清潔	a: 健康状態により日常生活行動が自力で行えず、他者の援助を受けることを理解できる 患者の状態を理解できる b: 安全と安楽を配慮できる 正常値を理解し、正しい方法で測定・看護行為が行える c： 実習に積極的に参加できる	筆記テスト	実習レポート	実習実技テスト
	診療と看護	1)バイタルサインの測定 2)救急処置				
	看護活動の展	1)患者との人間関係	a: コミュニケーションの重要性を理解できる b：基本的な対人関係技術を身に付ける			

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度